

議会だより とのしょう



えいじやびさし!
土庄町



龍をみつけたよ ～宝生院シンパク木道完成～

9月定例会を開催しました 2-3

委員会の活動報告・議員の活動状況 4-7

平成29年度の決算を審査します 8

一般質問（7人の議員が町政を問う） 9-13

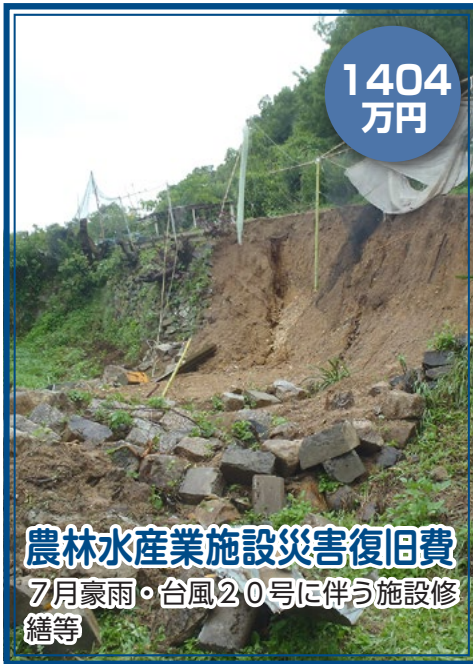
まちの元気印（小豆島陽当の里 伊喜末） 14

ひあたり

9月定例会は9月19日に開会し、9月21日に閉会しました。
補正予算3件、条例改正2件、契約関係4件、その他3件、平成29年度各会計決算認定が提出され、議案は各常任委員会審議を経て、全議案を可決しました。決算認定については、決算特別委員会を設置し、付託しました。
一般質問では、7人の議員が町政について質問を行いました。

補正予算の主な内容

再チャレンジ!



農林水産業施設災害復旧費
7月豪雨・台風20号に伴う施設修繕等



公共土木施設災害復旧費
7月豪雨・台風20号に伴う災害復旧工事、施設修繕等

条例の一部改正

◇放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例
土庄放課後児童クラブの教室移転に伴うもの。

◇家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
国の家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴うもの。

契 約

◇工事請負契約について
〔工事名〕

社会資本整備総合交付金事業 刈崎ポンプ場ゲート設備改築工事

〔契約の方法〕

指名競争入札

〔契約金額〕

5724万円

〔契約の相手方〕
平成機工㈱

◇工事請負契約について
〔工事名〕

刈崎都市下水路事業
大谷ポンプ場電気設備新設工事

〔契約の方法〕

指名競争入札

〔契約金額〕

7448万2200円

〔契約の相手方〕

㈱正興電機製作所
四国営業所

〔契約金額〕

6091万2000円

〔契約の相手方〕

㈱トミウ

〔契約の方法〕

解体（調3）工事

〔契約の方法〕

指名競争入札

〔契約金額〕

6091万2000円

〔契約の相手方〕

㈱トミウ

◇工事請負契約について
〔工事名〕

旧土庄中央病院本館解体（調3）工事

〔契約の方法〕

指名競争入札

〔契約金額〕

5724万円

8078万4000円
〔契約の相手方〕
富丘建設㈱

人事案件

◇固定資産評価審査委員会委員の選任
任期満了に伴い、引き続き委員として選任することに同意。

森 公士 氏（再任）
（72歳・刈崎）

その他

◇過疎地域自立促進計画の変更
庁舎の建設を過疎地域自立促進計画へ位置付けるもの。

◇公有水面の埋立て

香川県が土庄港（新開地区）の公有水面を埋立てることに伴い、公有水面埋立法に基づき、町長は香川県から意見求められ、意義がない旨を回答するにあたり議会の議決が必要であり、議会としても異議がないことを決定したもの。

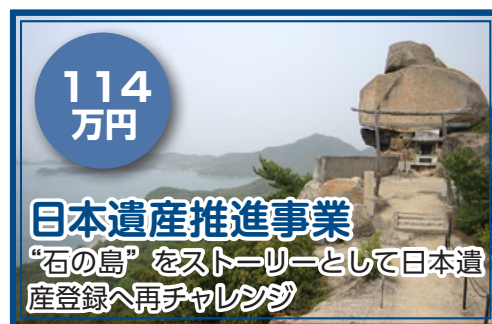
岡山県笠岡市、丸亀市、小豆島町とともに 日本遺産登録へ

平成30年度補正予算

会 計 名		補 正 額	補 正 後
一 般 会 計		1億821万9千円	95億5096万円
特別会計	国民健康保険	3954万6千円	20億472万円
	介護保険	6174万2千円	19億6721万円



付託審査での主な質疑
 移住定住に関する調査
 《佐々木》アンケートの送付数は。また調査の委託先は。
 《答》839件で、武庫川女子大学に委託する。
 《佐々木》調査結果を委員会へ報告してもらいたい。
 自転車を活用したまちづくりの推進
 《福本》事業を推進するにあたっては、自転車のマナー向上や事故防止の対策にも取り組んでいただきたい。



有害鳥獣被害防止対策
 《濱中》被害があれば修繕してくれるのか。
 《答》町が管理する農道・水路を原型復旧する。個人の物件は対象外である。
 土淵海峡イルミネーション修繕
 《岡野》今回修繕してもまた同じような状況になるのでは。
 《答》電球をLEDにするため、以前より耐久性が上がり長期間使用できる。
 口座振替納入通知書等の口座番号*アスタリスク
 《濱野》アスタリスク化に係るシステム改修委託は、複数の課にわたっているが、委託業者は同じか。また、一括発注になるのか。
 《答》同一業者に一括発注する。
 ※アスタリスク化とは
 通知書に記載される口座番号の一部をアスタリスク（*）で表示する。
 例）1234****

9月定例会の審議結果

14件とも全員賛成でした。

内 容	結 果	内 容	結 果
平成30年度土庄町一般会計補正予算（第3号）	可決	工事請負契約の締結について	可決
平成30年度土庄町国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決	工事請負契約の締結について	可決
平成30年度土庄町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	可決	工事請負契約の締結について	可決
土庄町過疎地域自立促進計画の変更について	可決	公有水面の埋立てについて	可決
土庄町放課後児童クラブ条例の一部を改正する条例	可決	土庄町固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意
土庄町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決	決算特別委員会の設置について	可決
工事請負契約の締結について	可決	決算特別委員会委員の選任について	選任

教育民生常任委員会

(9/5)

教育総務課
土庄こども園開園時期

土庄こども園は、工事が1か月ほど遅れているため、4月から新しい園舎で開園することが難しい。4月からは、認定こども園としてスタートするが、現在の土庄幼稚園、愛の園保育所を利用して、年齢ごとに分けて保育をする予定である。

定員230人のこども園となるため、子どもの負担や職員の勤務体制、周辺の駐車場の整備等を考慮し、新しい園舎での保育開始は7月頃と考えている。

《岡本》土庄こども園の送迎時に車が混雑しないよう道順等のルールは決めないのか。

《答》送迎に来る保護者が慣れるまで交通整理等が必要であると考えている。



四海幼稚園

四海幼稚園について

こども園への移行に伴い、双葉保育所が四海こども園になる。

四海幼稚園については、保護者説明会を行い、来年度の四海幼稚園への入園希望、また今後の在り方などのアンケートを取った。結果は、21人の保護者のうち4人の入園希望があった。

これを受け、教育委員に保護者からの意見を示し、教育委員会としての方針を作成し、結果を報告する予定である。

その他「保育料の改定」「腫保育所建設の進捗」の説明があった。

生涯学習課
中央公民館大ホールの空調設備

7月15日に中央公民館大ホールの空調設備が故障し、冷房が機能しない状況になった。部品交換では対応できないという報告を受けた。

利用者に迷惑をかけたので、お詫びのチラシを小豆郡内の新聞全紙に折り込みした。

早急に復旧しなければならぬところだが、大規模な改修工事となるため、直ちに工事を実施することは不可能であり、大ホールの利用予定者に状況を説明し、日程変更または会場の変更をお願いした。9月議会に設計委託にかかる補正予算を計上する。

《高橋》今からのタイムスケジュールは。

《答》最速で対応できれば、改修費を12月の補正予算に計上、3月末までには復旧、来年の夏の事業には間に合わせたい。

中央公民館駐車場の改修

町道拡幅工事に伴い、中央公民館駐車場の一部が歩道となる。また、駐車場西側部分にこども園の出入り口を取るため、従来の駐車スペースが減少する。そこで駐車場の中央部にある植え込みと照明を撤去し、駐車スペースとする。照明がなくなるため、新たに中央公民館建物に照明を取り付ける。

《岡本》NTT跡にできる駐車場は、公民館利用者も使えるか。

《答》こども園送迎時間以外は使わせてもらう。



現在の空調設備

宝生院シンパク再生事業

再生事業の全体計画は、平成28年度から32年度までの5か年事業で実施している。

本年度の事業は、主に木道設置の第2期工事として54㎡を整備する。シンパクの周りを木道が周囲する形で完成する。



宝生院のシンパク（木道）

住民環境課

一般廃棄物処理施設（最終処分場）進捗状況

現在、最終処分場の施設基本設計や生活環境影響調査、進入路の計画などを順次進めている。今後、地権者との協議を経て、計画を進めていく予定である。

《高橋》施設整備に補助金はあるのか。

《答》国の補助制度がある。

る。

《岡本》予定地のあたりに、昔に炭鉱の坑道があったのは知っているか。

《答》知らない。

《岡本》そういう話があるの一度調べて欲しい。また予定地の下には、土砂災害警戒区域がある。工事することで生活に支障をきたさないように注意していただきたい。

一般廃棄物収集運搬委託業務

現在、職員により一般廃棄物（ごみ）の収集・運搬を行っている。職員の年齢層も高くなり、数年後には正規職員もいなくなる状況である。

今後、直営でのごみ収集・運搬が難しくなる中、豊島を除いた土庄地区全体の週1回の不燃ごみ及び豊島地区における可燃物・不燃物の収集・運搬業務を委託したいと考えている。

《川本》業者の選定方法は。

《答》町内に事業所を置く業者から選定する。

総務建設常任委員会

(9/5)

総務課

防災行政無線デジタル化への整備

既設業者と協議し、役場新庁舎を親局として、中継局、再送信子局の場所の選定を行った。

5月に測定車両等を用い、電波伝搬調査を行った結果、豊島檀山に中継局、屋形崎配水池及び田井妙見山に再送信子局を設置する計画となった。

今後、四国総合通信局と協議し、防災行政無線デジタル化整備に向けた入札を行う予定である。

《濱中》家浦岡の電波状況は。

《答》現在電波が弱い状況であるが、檀山に中継局を置くことでカバーできる。

《佐々木》電波の届きにくい場所は、心配ないか。

《答》机上の計算、現場で測定をした結果、ほぼ届くようになる。どうしても届かない所は、屋外アンテナを使用する。

ブロック塀取り壊し

大阪府北部地震により、ブロック塀が倒壊したことによる死亡事故を受け、確認したところ、旧洲崎小学校プール及び旧町民プールにおいて、施設を囲むようにブロック塀が使用されていた。住宅地や歩行者も多い場所であるため、安全性を確保するためブロック塀を撤去する。

《福本》町単独の費用で行うのか。

《答》国で補助を検討しているようであるが、緊急性があり、工事を先に行う。補助については、国へ要望する。

その他「本町地区避難道等整備工事の進捗」「消防団本部車両更新等」の説明があった。

建設課

町道西古浜線道路改良事業

道路構造は、車道2車線、片側歩道で計画している。NTT建物撤去工事は、平成30年9月から平成31年3月までの予定と聞いている。

町事業の工事は、中央公民館前歩道を平成30年10月から12月まで、NTT敷地内が平成31年2月から7月、舗装工事は平成31年6月から7月で予定している。

町道要鉄川西線道路改良事業

新庁舎建設に伴い、隣接する町道要鉄川西線道路改良事業計画について、現行の県道改良計画には、交差点改良計画がない。新庁舎進入路計画による交差点改良計画の検討が必要となる。

今後、小豆警察署と交差点協議を行う。

その他「公有水面の埋立て」の説明があった。

商工観光課

どでカボチャ大会

9/16(日)、フレトピア広場、オーリーブタウン前において、第32回日本一どでカボチャ大会を午前9時から開催する。

優勝者には、農林水産大臣賞が授与される。また、小さなカボチャでも受賞できるよう、土淵海峡賞(9.93kg)をはじめ、設定された重量に一番近い方が受賞できるニアピン賞を新たに9つ設定している。

大会終了後、関連イベントとして、どでカボチャを使って、親子で体験

できる「第1回パンプキンキャンドルフェスティバル」を開催する予定である。

ドラム・タオ公演

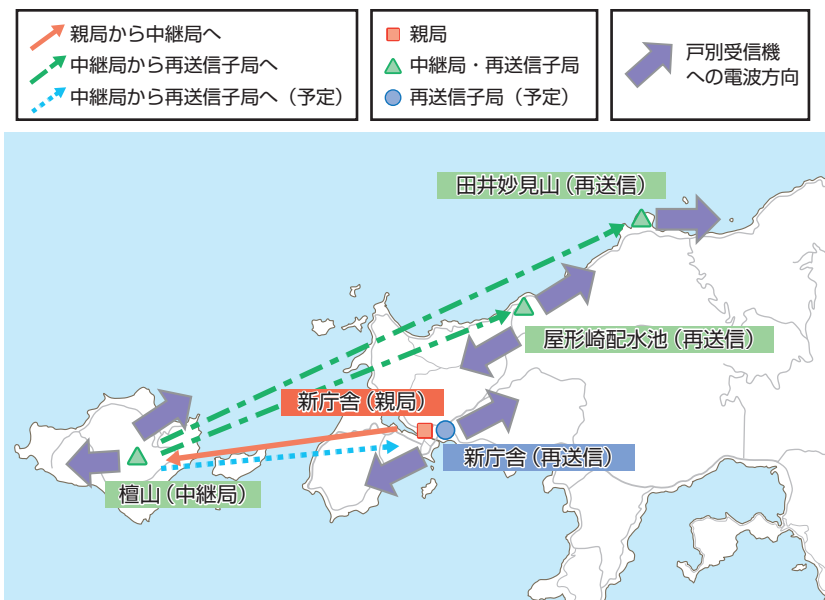
9/29(土)開催を予定していたドラム・タオ小豆島公演であるが、中央公民館の空調設備故障のため、11月21日(水)に延期して開催する。

日本遺産再チャレンジ

昨年度、土庄町と岡山県笠岡市、丸亀市、小豆島町の2市2町で、備讃諸島の石の島をストーリーとして認定を申請し、惜しくも認定に至らなかったが、再度日本遺産認定を目指す。

《佐々木》2市2町でどのような連携をするのか。

《答》交流等のアクセスも含め、お互いの地域の情報発信を深めていくことが必要である。



電波放出地図 (計画)



今大会で優勝した宇都宮さん (愛媛県)



香川大学との包括協定に係る調印式

香川大学との包括協定

香川大学と包括連携協力に関する協定を結ぶ。京都産業大学、武庫川女子大学に続いて3校目となる。この協定は、香川大学、土庄町、小豆島町との3者による調印となる。

地元の香川大学と連携することにより、教育、産業、文化等について、幅広い分野で町の活性化を図っていきたいと考えている。

《岡野》連携協力推進協議会を設置することであるが、どのような立場の方が入るのか。

《答》今後、香川大学、小豆島町と相談していく。

企画課 会計年度任用職員制度

地方公務員法及び地方自治法の大幅な改定によって、これまでの臨時職員、非常勤職員制度の運用を抜本的に変え、新たに会計年度任用職員制度を創設するものである。身分の取り扱いについては、地方公務員法上の服務に関する規定が適用される。

《佐々木》現在臨時職員は何人いるのか。

《答》約160名。

農林水産課 次世代産業育成モデル事業進捗状況

平成27年度から29年度は環境づくりの段階であった。今年度からは実証研究の本格的な実践段階になる。

《母倉》販売はいつ頃からになるのか。研究はいつ頃までするのか。

《答》6/12から播種を開始しており、できたものは病院関係に使っていただけないかということと県と一緒に訪問している。一部の病院では入院患者へ出すという話もできている。

また、この事業は、平成31年度までは実証研究で、平成31年度はどういう研究をしていくか、予算等はこれから県と協議しながら進めていく。



栽培されたレタス

庁舎問題調査特別委員会 (9/5、10/10)

《9月5日開催》

旧土庄中央病院解体工事

旧土庄中央病院本館解体工事は、まず旧土庄中央病院の玄関あたりの風除室と旧機械室の煙突にあるアスベスト除去と電気給排水切替の工事を発注する。

次に、解体・内装撤去・躯体解体を行う。その後基礎、地中梁の解体を行い、基礎の下にある杭の破砕を行う。

既存の浄化槽は、使用開始から22年を経過したものであること、平成16年の高潮災害にも浸水したことがあるため、新設する場合は、既存の浄化槽の解体を行うことを検討している。

解体工事一連の工期は、平成31年7月末の完了を予定している。

《福本》土地の強度の調査は解体後に行うのか。

《答》ボーリング調査について、現地調査自体は終わっており、強度は今

試験中である。

《濱中》アスベストの除去費用も解体工事に含まれるのか。

《答》躯体解体前に行うものとして、解体工事とは区別して発注する。

《岡本》アスベストは石綿を吹き付けているのか。

《答》そうである。飛散するものは、飛散しない処置を施す手順が必要になる。

《福本》旧中央病院建設の際に杭を打っているとのことだが、新たに打たなくても良いのか。

《答》今ある杭を抜かなければ、新たに打たないで、必要なところは既設のものを抜いて新たに支持層まで杭を打つ。



解体工事中の旧土庄中央病院

基本設計及び実施設計

基本設計及び実施設計業務は、(株)設計関西支社と契約を締結した。

選定方法はプロポーザル方式で、2社の参加があった。委託期間は、平成30年7月11日から平成31年7月31日までで、契約金額は、6480万円(税込)である。

基本設計は、平成30年12月までの約5か月、実施設計は、平成31年1月から平成31年5月までの約4か月、その後、確認申請等各種手続きを平成31年6月頃に行い、平成31年7月末を完了予定としている。

また、9月号広報では新庁舎建設への意見として、パブリックコメントを募集、10月中旬から下旬には、新庁舎の具体的な使い方、防災拠点としての災害時の利用方法等にテーマを絞り、住民参加型のワークショップを開催する。利用方法等の意見等があれば取り入れていきたい。

《10月10日開催》

新庁舎建設の進捗状況

旧土庄中央病院本館解体工事の進捗状況は、安全確保のための囲いをし、内装撤去、アスベスト除去の事前調査、電気給排水切り替えを行っている。また、既存の浄化槽は、現在の基準に適用するよう改修し、継続使用することで検討している。

次に、基本設計業務を委託している(株)梓設計関西支社を参考人として招致し、土地の利用計画や庁舎内の配置について説明を受けた。

《濱中》庁舎の西側に整備予定の駐車場は、高上げするの。

《答》開発する面積が、3000㎡を超えると県への申請に時間がかかることなどから、現在は計画していない。将来は、周辺に旧土庄高校のグラウンド、愛の園保育所、子育て支援センター等があり、ランドデザインの中で考えていく。

《福本》議場は具体的にどのようなものか。

《答》基本的には、フラットで議長席のみがひな壇になっている。執行部、議員、傍聴席は同じ床の高さである。議会だけでなく多目的な用途に使用できるように考えている。

《川本》正面玄関前にロタリーを計画しているが、庁舎前の駐車台数が減る。ロタリーを作ったまで台数を減らすべきものなのか。

《答》駐車台数の問題、交通安全の問題などいろいろな意見をいただき調整したい。

《川本》1階で相談している際、他の人から見られて嫌であるというのを聞く。1階に相談室が1部屋の計画で良いのか検討してほしい。

《岡本》住民にとってどうすれば使い勝手が良いのか、もう1度練り直して提案してもらいたい。

議員の会議等出席状況(平成30年8月1日～平成30年10月20日)

月 日	会 議 等	岡野	岡本	濱野	高橋	木場	母倉	福本	濱中	山崎	川本	佐々木	井上
8月17日	全員協議会	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○
8月20日	小豆郡町議会議長会研修会	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○
9月5日	総務建設常任委員会	○	—	○	—	—	○	○	○	—	—	○	議
//	教育民生常任委員会	—	○	—	○	○	—	—	—	○	○	—	○
//	庁舎問題調査特別委員会	—	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○	○
9月12日	議会運営委員会	—	—	○	—	—	○	○	—	○	○	○	議
//	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9月19日	9月定例会本会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
//	総務建設常任委員会	○	—	○	—	—	○	○	○	—	—	○	議
//	教育民生常任委員会	—	○	—	○	○	—	—	—	○	○	—	○
9月21日	9月定例会本会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
//	決算特別委員会	○	○	○	○	—	—	—	—	○	—	○	○
9月27日	小豆島中央病院企業団議会9月定例会	—	—	○	—	○	—	—	○	○	×	—	○
//	国民健康保険運営協議会	○	—	—	—	—	○	○	—	—	—	—	—
9月28日	小豆地区広域行政事務組合議会9月定例会	—	—	○	—	—	—	—	○	○	×	○	○
10月4日	小豆島中央病院研修会	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○
10月10日	議会広報特別委員会	○	○	○	○	—	—	○	—	—	—	○	○
//	庁舎問題調査特別委員会	—	○	—	—	○	—	○	○	—	○	○	○
10月16日	決算特別委員会	○	○	○	○	—	—	—	—	○	—	○	○
10月17日	香川県広報発行町議会連絡協議会定例会及び研修会	○	○	○	○	—	—	×	—	—	—	○	×

○：出席 ×：欠席 —：出席不要 議：議長の職務出席
※議長、副議長のみ出席の会議等は省略しています

平成29年度決算

一般会計、各特別会計、公営企業会計の平成29年度決算がまとまり、監査委員の意見を添えて提出された。

決算認定については、決算特別委員会が閉会中に継続審査することとなった。

決算特別委員会

委員長 岡野 能之
副委員長 岡本 経治
委員 濱野 良一
高橋 正博
山崎 勝義
佐々木 邦久
井上 正清

平成29年度会計別決算額

(単位：千円)

会計名	歳入	歳出	翌年度繰越財源	実質収支
一般会計	8,221,895	7,636,967	112,934	471,994
特別会計	国民健康保険	2,346,218	2,238,998	0
	港湾整備	30,204	58,890	△ 28,686
	宅地造成	242	78,662	△ 78,420
	大鐸財産区	5,239	3,327	0
	農業集落排水	27,932	27,932	0
	介護保険	1,867,849	1,771,276	16,020
	福祉サービス	94,453	94,453	0
	後期高齢者医療	235,960	235,784	0
企業会計	収益	費用	純損益	
水道	収益的収支	475,070	433,630	41,440

監査委員の意見

大型事業が続くため
事業の見直しと施策の選択を

【一般会計】

ここ数年、収入未済額の減少、税等の収納率の向上がみられ、成果を上げていくことは高く評価する。

今後も、より一層の徴収努力と効果的な徴収方法を模索し、負担の公平・公正が図られるように努められたい。

また、人口減少や高齢化の進展は続くものとみられ、扶助費や公債費などの経常的経費の増加以外に、庁舎建設事業、一般廃棄物処理施設整備事業など多額の費用を要する事業を予定している。

今後は、様々な視点からの事業の見直しや重点施策への配分などの検討を行い、安定した財政運営と町民福祉の向上に努められたい。

【特別会計】

宅地造成事業は、最終の土地売却から、まもなく10年が経とうとしており、売却価格の見直しについて協議・検討されたい。

農業集落排水事業は、収支不足を一般会計からの繰り入れにより補てんしている。今後も人口減少により、下水道接続世帯の大幅な増加は見込まれず、将来の一般会計への財政負担が懸念される。早急に対応を検討されたい。

【水道事業会計】

有収率の向上、未収金の回収に努められたい。また、施設更新の際には、近年起こっている災害の被災自治体の状況を参考に、災害に強い施設改修に努められたい。

報告

平成29年度決算健全化判断比率・資金不足比率

自治体財政の健全度を表す指標は、いずれも早期健全化基準を下回っている。

町債の現在高については、一般会計においては大型事業が続いていること等から、近年増加傾向

が続いている。

今後も大型事業が予定されており、公債費の増加が見込まれるため、町債の発行は必要最低限とし、将来的な負担を考慮した計画的な管理に努められたい。

健全化判断比率	H29年度	H28年度	H27年度	早期健全化基準
実質赤字比率	—	—	—	15.0%
連結実質赤字比率	—	—	—	20.0%
実質公債費比率	6.4%	6.5%	7.0%	25.0%
将来負担比率	24.9%	31.8%	44.2%	350.0%

※赤字額がないものは一で表示

実質赤字比率・・・一般会計に占める赤字の割合

連結実質赤字比率・・・公営企業などを含む全会計に占める赤字の割合

実質公債費比率・・・自治体収入に対する借金返済額の割合

将来負担比率・・・将来にわたる実質的負債の割合

早期健全化基準・・・上記4指標のいずれかがこの基準を超えた場合、自主的かつ計画的に財政健全化を図るため、財政健全化計画を策定することが義務づけられる

議員が町政を問う

ここが聞きたい



9月定例会では、7人の議員が一般質問を行いました。
全文記録（会議録）は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

▶土庄町ホームページ

<http://www.town.tonosho.kagawa.jp>

質問議員	質問事項
木場隆司	○人口減少と町債残高及び財政調整基金
濱中幸三	○環境保全に町条例の適用を
母倉正人	○グランドデザイン策定事業等の進捗状況 ○どのような職場を作ることによって町民の負託に応えようとしているか
岡野能之	○防災・減災対策
高橋正博	○障害者支援事業所の設置
岡本経治	○町の災害対策の取り組み
福本耕太	○重度心身障害者医療費窓口無料化に向けた取り組みの進捗状況 ○誰もが参加でき、質問や要望が出せるこども園の説明会を早急に開くべき ○学校給食費の無償化を ○豊島航路の積み残し問題、具体的な対策は



木場隆司 議員

人口減少と町債残高及び財政調整基金

木場 世界の人口は、毎年8300万人ずつ増加し、現在196か国で76億人、2050年には98億人と推測されている。これに対しわが国は、現在の1億2670万人から2060年には8674万人と減少する。同比率として土庄町を見ると、現在の1万4000人から2060年には9600人となる。

人口減少が続く中、29年度末町債残高は97億3700万円、町民1人あたり69万円の借金。また、財政調整基金いわゆる貯金は25億800万円となっている。

29年度の公債費は、8億3700万円で、新土庄小学校建設、小豆島中

央病院建設等により、公債費の増加、財政調整基金の減少が見込まれる。

さらに、新設統合こども園建設、土庄町庁舎建設事業、一般廃棄物処理施設整備事業など、多額の予算を必要とする事業が計画されており、財政は、非常に厳しくなる。

人口減少、高齢化が進む中、町債残高の増加、また町債増加による公債費の増加、財政調整基金の減少にどのように対応していくのか。考え方を問う。

みにより、実質的な公債費の負担は2割または3割となる。

しかし、交付税措置の算入が高い町債であつても、償還期間は10年から12年と短いため、単年度負担は多くなり、町財政を圧迫する可能性は大いにある。

木場 将来の人口減少に向けて、可能な限り費用対効果を考慮し、取り組んでいただきたい。



現在建設中の土庄こども園



産業廃棄物を撤去している現場



濱中幸三 議員

環境保全に町条例の適用を

濱中 なぜ、豊島唐櫃栄山地区の太陽光発電計画地に、土庄町自然環境保全条例の適用を躊躇するのか。

住民環境課長 計画地は整地する程度で、香川県との協議で開発行為に該当しないため、条例の適用は難しい。

濱中 1haに渡って山林が壊され、2万㎡以上の汚泥が運び込まれている。現場を見てどう感じるか。条例を適用しなくていいのか。

住民環境課長 粘り気のある土で、晴れた日にはカチカチになる土質であった。

濱中 現地でどのような指導をしているのか。

町長 廃棄物があれば、選別・除去し、適正に処理するよう指導をしている。

濱中 全ての廃棄物が完全に取り除かれているか。

住民環境課長 廃棄物があれば除去するように指導している。

濱中 1cm角、2cm角の廃棄物も撤去の対象になるか。

住民環境課長 廃棄物があれば除去するよう指導している。



母倉正人 議員

ブランドデザイン策定事業等の進捗状況

母倉 過去、町のブランドデザインについての質問に対し、町全域のブランドデザインを作成する方向で進め、同時に北部地域資源活性化を策定し、その中でも北部の景観を生かした賑わいの創出を考えるとのことであった。

2つのプランは誠に意義のあるものとして、執行部の考え方を評価している。

現在の進捗状況と今後の見通し、作業中での議論や論点整理の状況、計画の方向性について現時点での考え方を問う。

企画課長 町では、町全体の将来像を見据え、長期的・総合的な視点での町づくりの方向性などを

示すブランドデザインの策定にあたり、昨年度に庁内プロジェクトチームを立ち上げ、検討、資料収集等を行った。

ブランドデザイン策定では、長期的な視点で本町のまちづくりの方向性

と取り組むべき地域課題に対応する施策等を検討する必要がある。そこで、本年度業務委託により、本町の施策・事業の洗い出しや関連計画の整理、取り巻く社会環境や財政状況のほか、地域や

年齢層など分野ごとの住民の課題認識やニーズを調査・分析するなど、ブランドデザイン策定の基礎調査を行う。

また、その基礎資料をもとに、平成31年度に策定したい。

どのような職場を作ることで、町民の負担に

母倉 現在は、働き方改革に関する議論がなされるなど、国内の職場の様相が変化する時期だ。

町は、良好な職場形成に努めているようだが、



庁舎内の様子

一方で現在は、基礎的自治体の役割が増大する中で職員減という方向性があり、ひずみが生じかねない環境だ。

自治体を取り巻く困難な環境の中で、どのような職場を作り、町民の負担に

企画課長 近年、行政に対するニーズは益々多様化・高度化しており、地方分権の流れの中、自治体組織は、自ら考え、対応する力が必要となってきた。

町では、国の指針により、平成18年度に「土庄町行政改革集中プラン」を策定し、定員管理計画のもと、職員数の削

減を図り、限られた財源と人員の中で最大の効果を発揮できるよう行政運営の推進を図ってきた。

また、「土庄町人材育成基本方針」を踏まえ、総合的な人材育成・組織づくりに取り組んできた。職員一人ひとりの能力を向上させ、その能力が最大限に発揮されることで組織の活性化を図り、組織全体の強化と成果に結実させていくことができる組織づくりを目指している。

今後、効果的な能力開発や適正な定員管理、また適材適所の人員配置等により、職員個々の能力と、組織力が両輪として動くことで、職員にとって働きやすい職場、また住民にとって役に立つ組織でありたいと考えている。

そして住民福祉のさらなる向上のため、職員一人ひとりが常に改革、改善の意識を持ち、スピード感を持って何事にも積極的に挑戦する職場風土づくりに取り組む。

町では、国の指針により、平成18年度に「土庄町行政改革集中プラン」を策定し、定員管理計画のもと、職員数の削減を図り、限られた財源と人員の中で最大の効果を発揮できるよう行政運営の推進を図ってきた。

また、「土庄町人材育成基本方針」を踏まえ、総合的な人材育成・組織づくりに取り組んできた。職員一人ひとりの能力を向上させ、その能力が最大限に発揮されることで組織の活性化を図り、組織全体の強化と成果に結実させていくことができる組織づくりを目指している。

今後、効果的な能力開発や適正な定員管理、また適材適所の人員配置等により、職員個々の能力と、組織力が両輪として動くことで、職員にとって働きやすい職場、また住民にとって役に立つ組織でありたいと考えている。



豊島唐櫃栄山地区からの景色



岡野能之 議員

濱中 汚泥の上に太陽光発電施設を作ろうとしている。町は、土庄町自然環境保全条例を適用して、業者の指導を。

町長 弁護士に相談し、「この条例では対応できないと思う」と回答があった。ただ、産業廃棄物は、残った土壌も全て撤去すべきだと思っている。

濱中 町が制定した自然環境保全条例は、前文の中に素晴らしい文言がたくさん入っている。

これに対して、町が手を打たない手はないと思う。この自然環境保全条例の適用によって、事業が止まるかと言えば、止まらないかもしれない。

しかし、外から豊島に持ち込んだ廃棄物を含む汚泥は全部出していただきたいというのは、豊島の住民の思いである。ぜひ汚泥を含む産業廃棄物は島の外へ出してほしい。

今後とも、町の全面的なバックアップをお願いしたい。

防災・減災対策

岡野 浸水している地域があるが、その対応は。

建設課長 現地調査を行い、建設課が所管する箇所は、短期的に対策する部分と長期的に対策する部分を計画し、対応する。

岡野 避難生活で災害の情報取得ツールは、スマートフォンであったと言われている。インターネット接続環境が不可欠であるが、町の対応は。

総務課長 かがわWiFiのスポットは、町内8か所に整備し、近辺で受信できる。

岡野 国の補助もあると思う。避難所等への整備に取り組んでいただきたい。

岡野 防災教育について

総務課長 災害時に備えるとともに、防災意識の向上を図るため、町内小中学校に防災用ヘルメットを配布した。

また香川県シェイクアウトを、小中学校をはじめ町民の皆様に周知し、一斉に身を守る安全確保行動の訓練を行っている。

岡野 災害時にリーダーとなる人が必要だが、町内の防災士の資格保有者を把握しているか。

総務課長 防災士の資格保有者は、3名である。

岡野 3名は少ない。防災士を養成する仕組みを作っていただきたい。

岡野 指定避難所、緊急指定避難場所以外に自治会館など自主的に開放している避難所との連携はどうなっているか。また、その避難所の安全性は把握しているか。

総務課長 自治会館など指定避難所以外の施設を開放していただいていることは承知している。今後は安全性を確認し、要件を満たす施設は、管理者と協定を結ぶなど指定緊急避難場所として開設できるよう検討していく。

岡野 高齢者、障害者等への対応、また歩行が困難な方や毛布が持参できない方に対しての対応は。

総務課長 必要に応じて職員が避難所等に配布しているが、避難時には食料や毛布等の持参をお願いしている。高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児への個別の対応は、現在できていない。

岡野 配慮をお願いしたい。

岡野 備蓄品を保管している場所が少ないが、運搬については。

総務課長 備蓄品の量は、確保できているが、

県の方針である各地域への分散備蓄はできていない。今後少しずつ分散箇所を広げて行く予定である。

岡野 指定避難所に収容できる人数は、町民に対してどのくらいの割合か。

総務課長 指定避難所は、町が20か所指定している。全町民の52%が収容できる。

岡野 町長の全体的な防災に対しての考えを伺う。

町長 小豆島町、県、四国整備局と連携し、町民の安心・安全を守っていく。

岡野 町民の生命、身体及び財産を守ることを第一に考えなければならない。財政は厳しいが、災害に強い町、被災後の対応がしっかりとできる町、災害に対して町民の知識が豊富で意識が高い町を目指し、防災・減災対策を前向きに進めていただきたい。



高橋正博 議員

障害者支援事業所の設置

高橋 旧池田町に障害者特別支援学校が設立されようとしている。この支援学校は、中学生まで修業できるということである。高校からは高松の養護学校に通わなければならないという実情である。

保護者と本人にとって本質的な問題の解決にはなっていない。養護学校を卒業してからどのような自立して生活をしていくのかということが、一番苦悩するところである。

小豆島で安心して生活できる収入が得られるのが関係者の望むところである。残念ながら、土庄町にも小豆島町にも安心して、安定的に自立して収入が得られる就労支援先はない。

ちなみに、障害者支援事業所には、A型とB型の2つのタイプがある。平成24年の平均賃金は、A型・月68691円、B型・月14960円である。大きく収入に違いがあり、現在土庄町には、B型支援事業所ひまわりの家しか存在しない。

安心して生活していくためには、A型支援事業が必要と考える。町長の考えを問う。

福祉課長 障害者の就労は、一人ひとりの障害の部位や程度により、多様な就業の機会の確保を図っていく必要がある。一般就労は、地元企業の理解も少しずつ進んできており、就労の機会も増えつつあると感じているが、就労移行支援を行う事業所や就労継続支援事業所は、不足しているのが現状である。

特に、議員指摘の就労継続支援A型の事業所は、残念ながら町内、また郡内にもない。ただ、昨年岡山、香川等でA型



岡本経治 議員

町の災害対策の取り組み

岡本 我が町でも、大小に関わらず住民に不安をもたらす災害が起こっているが、町長の早めの判断で、今のところ大事に至ってはいない。今後の災害対策としての人員配備はどのようにしているのか。

総務課長 土砂災害警戒情報が発表された時点で水防本部が設置され、町長以下執行部、消防長、消防団長が待機する。

さらに特別警報が発表された時は、災害対策本部に移行し、職員全員が配備することになる。

職員が減少する中、水門、ポンプ場の管理、災害発生時の現地確認や対応を行う職員の配置が現在課題となっており、そのような中で土庄町総合

防災訓練の際に、NPO法人かがわ県防災教育振興協会にご協力いただいた。

岡本 防災士の資格を持ったNPO法人とすみやかに協定なり、委託なり契約をし、要請すること強く望む。

岡本 防潮堤について、あと数センチで海水が溢れてくる箇所が多数あるが、町は掌握して、実質どのような対策を施しているのか。

建設課長 計画の策定を行い、修繕工事を実施しており、今後も計画的に施設の長寿命化に努め、海岸施設や防災対策を所管する関係機関と連携を密にし、地震・津波対策の強化を図っていき

たい。

岡本 災害ごみ集積処理について、土砂・水災害後の集積場所は、確保し、また、処分場の馬越予定地は、災害ごみまで集積出来るのか、下の方

に民家があるが、二次災害等の危険性は無いのか。

住民環境課長 今年度、小豆島町と連携し、仮置き場の配置や処理方法など具体的に示した小豆地区災害廃棄物処理計画を策定する。馬越地区の予定地は、災害時のごみも受け入れる方向で協議していきたい。

岡本 全て計画である。速やかに実行できるようにしていただきたい。

岡本 災害時のエネルギー等は、各自自治会、避難所等で2、3日賄える食事、ガスコンロ、鍋釜等の充実はきちんと出来ているのか。

総務課長 災害時のエネルギー確保は、再生可能エネルギー等導入事業を活用し、町では平成25年から27年度にかけ地区の避難所に太陽光パネル蓄電池を設置している。

具体的には、アクティブ大鐸、大部公民館、土

庄町総合会館、旧高松法務局、土庄小学校、やすらぎプラザ、中央公民館、豊島小中学校、北浦公民館に設置済みである。今年度に、建設中である四海公民館完成後には蓄電池を設置することで、各地区避難所への整備が完了する予定である。

町としても備蓄・防災用品の整備の推進を図っていきたく考えている。

岡本 災害復旧対策費の充実は、県知事も防災に對し、しっかり取り組んで行くと言っておられる。離島の町として速やかに防災に関して予算を組んで行動を起こしていくという心構えがあるのか。

町長 会議を開き、迅速に対応していく。

岡本 想定外という言葉が出ないように、町長の判断で町民の命が守られたと言われるような取り組みをしていただきたい。



ひまわりの家で製造した商品をふるさと納税の返礼品として利用

高橋 離島というハンデも抱えながら頑張っている。弱者にも目をつけた行政手腕を発揮していただきたい。

事業所を運営していた事業所が一齐に閉鎖し、多くの障害者の方が解雇された例を含め、全国で事業所の廃止が相次いでおり、安定した事業運営の困難さが指摘されている。

町としては、小豆郡自立支援協議会の就労支援部会の場において、地域課題の洗い出しや、障害者雇用への理解の促進について検討を進めており、今後も障害者の就労機会

の確保に努めていきたいと考えている。

高橋 ひまわりの家の周りを車で通ったり、歩いて通ったりするが、あの場所が本当に環境の良い場所なのかと疑問に思う。どう考えているか。

町長 急な坂道もあり、上り下りが大変ということとは聞いている。公共施設の空き状況や耐震等を踏まえて検討する。

重度心身障害者医療費窓口無料化に向けた取り組みの進捗状況

福本 3月議会で私は、一刻も早い重度心身障害者医療費の窓口無料化の実施を求めた。その際、町は「前向きに検討する」との答弁をされたが、その後の進捗状況について答弁を求める。①実施はいつからになるか。②自治体によって制度の範囲が異なるが、わが町の場合の範囲はどうか。



福本耕太 議員

福祉課長 実施時期は、システム改修などに係る必要経費を来年度当初予算に計上し、8月診療分からの実施を目指している。

範囲は、後期高齢者医療の方を除き、県内の医療機関での窓口無料化に向けた準備を進めている。また、小豆島町と足並みを揃えることで、より効率的に進めたいと考えている。

教育総務課長 現在、教育委員会及び園長で組織する開園準備会を月2回開催し、協議を進めている。土庄こども園は、土庄保育園との連携も考えており、詳しい内容は、10月中旬に開園説明会を開催し、説明する。

開園説明会の周知は、町広報で行い、報告は幼保再編協議会が発行する「再編だより」で行う。迅速な情報提供と子どもたちに負担の少ない、保護者のニーズに沿ったこども園となるよう工夫、検討が必要と考えている。

福本 必要であれば、説明会を複数回行うことも考えているか。

教育総務課長 まずは、10月中旬に土庄こども園の説明会を開催し、以後各園での開園説明会も順次行っていく。

学校給食費の無償化を 福本 8月に文科省が発表した公立小中学校の給食費無料化に関する全国調査では、無料化が保護者の負担軽減だけでなく、教職員の給食費徴収や未納対応などの業務の煩雑さの解消につながり、教育に専念する時間の確保につながっていることや人口規模が少ない自治体ほど積極的に実施

している傾向があることが報告された。わが町でも検討を始めてはどうか。

教育総務課長 学校給食に係る経費は、平成29年度決算額で約9000万円、うち保護者負担が5250万円である。

現在、保護者の所得に応じて、給食費の減額や全額補助をしている。財政負担を考えると、一律に所得等の制限なく無償化することは、今のところ難しい。

豊島航路の積み残し問題、具体的な対策は

福本 前回の議会で私は、行政として責任を果たすためには、具体的対策が必要であるとして「月報」を取るよう提案した。具体的な答弁をいただきたい。

企画課長 島民の生活航路であり、足の確保の観点から、月報を取ることや週1回フリー会社社に訪問する、来庁してもらうなどで連携をしていきたい。

まちの
元気印

小豆島陽当の里伊喜末



メンバーの皆さん（後列右から2番目が濱中さん、前列右から2番目が前田さん）

成29年12月に活動をスタートしました。

Q メンバーは何人いますか。

A 約30人です。地元の各種団体（自治会・婦人会・青年団・子ども会等）とも連携しており、声をかければ50人くらいの人が集まってくれます。

Q 主にどのような活動をされていますか。

今回は、伊喜末地区で地域の活性化を目的に農業を基盤として活動している「小豆島陽当の里伊喜末」の皆さんにご登壇いただきます。会長の濱中紀仁さん、書記の前田満照さんにお話を伺いました。

Q 活動を始めた時期ときっかけを教えてください。

A 「地域の農業・農村をいかに元気に、楽しくして次代に伝えるか」を考える人たちを中心に、平

「活力ある地域づくり」、「耕作放棄地の防止」、「体験学習や体験交流の推進」を活動の3本柱として、鳥獣害被害対策（メッシュ柵の維持管理）、農地や施設の保全などの事業活動、農業体験、産直市などのイベント活動、高齢になり一人で農業できない方を助ける農業支援活動を行っています。

昨年度は、食品企業と連携した契約栽培を行い、バジル、とうがらしを栽培しました。

また今年に入り、小豆

島町のビール醸造所「まめめびーる」と協力し、二条大麦を栽培し、ビールを作ってもらいました。今後も継続しながら、規模を拡大していきたいです。

Q 活動を通して感じることは。

A 活動を行うための打ち合わせ、また活動が終わった後の反省会等で集まり、会話や飲食をし、メンバー同士の絆が強くなり、生きがいづくり、居場所づくりにもなっていると感じます。



二条大麦の収穫

Q 今後の目標や力を入れていきたいことはありますか。

A 学校と連携した食育、新たな作物の試験栽培、グリーンツーリズムにも積極的に取り組んでいこうと考えています。

また、耕作放棄地を解消するため、特にオリーブ栽培を推進して地域の景観を守っていききたいと考えています。

Q 町や議会に対する要望はありますか。

A 地域と行政と議会が、連携し、手を取り合って活力ある地域づくりができるようお願いしたいです。



小学生の玉ねぎ収穫体験の様子

議会の生の声を聞いてみませんか？

次回定例会は

12月中旬からの予定です

詳しくは議会事務局へ ☎62-7011

議会日程は町ホームページでもお知らせしています

小豆島陽当の里伊喜末 主催
農業体験イベント

11/18 10時30分から

詳しくは下記ホームページから
<https://www.hiatarinosato.com>

編集後記

勇ましい掛け声と太鼓音が町中をめぐり、静けさがまた戻る頃、小豆島に秋がやってきます。

今年4月から水道事業が県で一本化され、運営主体も町から企業団に変わりました。住民の命と生活に直接かわる水道事業は、これまで最も身近な町が運営することで地域の「安心と安全」を支えてきました。

水道事業に先んじて企業団になった小豆島中央病院では、深刻な問題に直面しています。「医療の充実に重点を置いて、医師を増やせば、採算が合わず赤字が大きくなり、収益に重点を置けば、十分な医療の提供に限界が生じる」と語る企業長。

運営主体が、町から企業団へと変わる中で、地方議員が誰のために、何を優先するのか、その政治姿勢が大きく問われていると思います。

《福本耕太 記》